評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4472600776
法人名	特定非営利活動法人 養老会
事業所名	グループホーム 養老の泉
訪問調査日	平成 20 年 10 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかざる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4472600776
法人名	特定非営利活動法人 養老会
事業所名	グループホーム 養老の泉
所在地	豊後大野市大野町大原1260番地 (電話) 0974-34-4653

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市顕徳町2丁目1番5号
訪問調査日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 11月 21日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人
非常勤	2 人
常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,900 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	155 円	昼食	250 円
	夕食	275 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	780 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	天心堂おおの診療所・久保歯科医院・筑波クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ・利用者の人権を尊重するという理念や健康な生活への取組みは、創設者の社会弱者と関わり合った職歴や自身の闘病から得た体験的なものとして特徴づけられている。そうした理念や取組みはホーム設立に携わった管理者も共有し、ホーム運営に反映されている。
- ・地元出身の利用者がほとんどのため、ホームも言わば「馴染みの場所」に作られている。家族の訪問もしばしばで、地域との交流も活発である。また、地域性を活かした新鮮な素材が食卓に並ぶ。
- ・古い屋敷を手間暇かけて改築し、懐かしく暖かい、家族的な雰囲気を醸し出している。リビングや庭先には絶えず利用者が集まっていて、各自がしたいことを行っている。利用者の状態に応じたかたちで職員が付添っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「市町村との連携」(外部6)について、法人としての関わりに止まらずホームの管理者や職員が直接役所に出向いて働きかけるべきといった提言がなされたが、法人組織の機能上、現場の声は吸い上げられていて、バラバラに個別に働きかけるのは不効率ということで、提言が現実に見合っていないという結論に至った。また、「災害対策」(外部27)については、地域の協力体制に関し、現在運営推進会議に地域の人にも参加してもらって、具体的内容を検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議で、前回の自己評価・外部評価を通して事業所が取り組むべき点を議題に取り上げ、それを基にしながら職員と共に自己評価を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し事業所の活動状況や利用者の状況を報告、ザックバランに意見を出してもらっている。家族・市の職員・消防署の職員・市議員・民生委員・地区の住民等が出席災害対策(人命救助)や外部評価と自己評価等についてをテーマに、運営推進会議を予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を開催したり、意見箱を設置してもそれで良しとはしていない。中々本音は引き出しにくいし、取り分け利用者のキーパーソンとなる人からは苦情が出てきづらいと認識している。一方、利用者のほとんどが地元の人なので、家族の面会の頻度が高い。来訪の折に、「家族会では言い出しづらかったが」等と事務所に言いに来てくれる人の意見を貴重なものとして取り込んで、ホーム運営に反映させようと努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域活動に利用者や職員が参加する一方、法人主催の行事に地域の人たちを招いたり、毎月職員が地域の人に向けて介護予防教室を開催して交流を図っている。その活動の一環で、地域のお宅に利用者や訪問することもあるが、年々その対応が向上され手応えを感じている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立から7年を経過、当初の理念(地域の皆様と暮らし生きていきます)を継承している。又介護理念にその人らしく最期までという地域密着型サービスの役割を反映した理念です。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や申し送りの時、理念に基づいたケアがされているか管理者・職員が取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ともに暮らす地域の一員として、自治会に加入し交流に努めている。 介護予防教室を開催し地域の住民も参加している。 法人の夏祭りには、広報部の担当者が案内書を作成近隣の住民の自宅を訪問し参加をお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点(市職員との情報交換・災害時の事業所の対応)について管理者・職員が改善し取り組みをしている。 今回の自己評価は、全職員で評価の意義を理解し積極的に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加者から率直な意見を引き出し自己評価や外部評価の結果を生かしたサービスの質確保に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームとして市町村担当者との関わりは、必要の都度助言を頂いている。	○	市町村の担当者に、事業所の実情やケアサービスの取り組みを定期的に伝え、実態を共有することが望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の、日々の暮らしの写真をホーム内に掲示し家族が面会に来たとき見てもらっている。 健康状態については、面会のときに個別に報告している。 急変時には、その都度家族と連絡を密にしている。 金銭は、事業所が立替払をし、後日明細書を添付し請求させていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が運営推進会議に出席して、家族会での意見・不満・苦情等を表せる雰囲気をつくり、運営に反映できるよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の運営者は2つのグループホームを運営しているが、定期的な人事異動はしていない。 昨年10月と今年の5月に管理者の異動があったが、以前から顔馴染みの関係だったので利用者に影響はなかった。 今年5月に1名入社したが利用者との関係を重要視し、馴染みの関係を築くよう努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら外部の研修会に参加し、レベルアップ出来るよう事業所として後押しをしている。 研修終了時には報告書を提出しスタッフ会議で報告、研修のファイルは何時でも閲覧できるようにしている。 又法人として月1回、社内の研修会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年度末にサービス水準の向上・交流等を目的に、他法人の同業者・地域の住民・県会議員・市役所の担当者・民生委員等が参加し連絡協議会を立ち上げたが、その後の進展がない。	○	同業者との交流や連携を通じて、実践的なサービスの質の向上にむけての取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの利用者さんが同一法人内から入所しているので、職員と顔なじみの関係が出来ておりスムーズにサービス利用が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者のプライドを傷つけないよう言葉かけには充分気をつけて接しており、共に暮らしの中で支えあったり一緒に喜んだり、「困った時はお互い様」の法人の基本を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情、言葉、行動等から思いを汲み取るように努めている。入所前のことなどは、家族から聞き取り把握するように努めている。新たな気づきはフェースシートに記録するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族の思い、意見を伺いながら日ごろの生活を楽しくしてもらえるように介護計画を作成するように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じたときのサービス提供は行われているが介護計画の見直しにまでしていない。	○	現時点での利用者や家族の状況ニーズが、サービス提供状況と、ずれが無い様見直しについて検討を重ねることを、希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	重度化された方や、終末期の方に対する支援には最後まで家族の要望に応じた柔軟なサービス提供を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診と往診がほとんどであるが、変更する場合は、家族の同意を得ている。急変時や夜間の対応については、適切な医療を受けられる体制を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を交わし、主治医、ご家族、看護師、職員等を交えて終末期に向けた話し合いを繰り返し行い、安心してサービスが利用できるような支援の統一に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「職員は決して利用者のプライドを傷つけない」をスタッフ像に掲げ、職員も認知症への深い理解のもと、利用者の尊厳を尊重するよう接している。また、ミーティングの際にも個人名をあげないよう配慮し、個人情報については生活の場から区切られた鍵のかかる部屋に一括して厳正に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理事長自身の経験から、ホーム設立の際に理念上特に重視している。「本人がやりたいことはこちらの都合では止めない」という職員の聞き取りからも分かるように、利用者のやりたいこと・行きたいところへ職員が付添う姿が実際に見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや味付けなど利用者の希望を反映するように、職員から厨房へ伝えられる体制がとられている。ホームの敷地の外に厨房があるが、利用者が職員と共に食事の運搬を手伝ったり、配膳・片付けも一緒に行っている。利用者と職員は会話をしながら、同じテーブルで同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制がとられている。通常は午後の時間に準備されているが、状況次第で午前中から入れるようにしている。入浴したくない利用者に対しては、最低一日おきに入るように働きかけを行っている。入浴が嫌いな利用者に対して、仲のいい人と一緒に入っている内に一人でも入れるように支援するなど工夫がみられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が全員女性なので、家事を中心にそれぞれの力が発揮できるような活動を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が利用者を誘って戸外へ一緒に出るようにしている。午前中に職員と一緒に複数の利用者が洗濯干しをする姿が見られた。また、職員の所用で車を使用する際に、利用者が同乗し、行きがてら買物をできるようにしたり、「家に帰りたい」という利用者に対して、かつて住んでいた地域をドライブしたりと個人のニーズに合わせた外出の支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアが実践されている。不穏な状態で一人で外出してしまう問題に対しては、利用者一人ひとりのその日の状態を把握して見守っていく等、出て行ってしまふ前の対応に重点を置いている。いなくなってしまった際の連絡網整備として、近所のお宅に会報やチラシ等を持参する際に利用者も同行し、理解・協力を求める取り組みを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、緊急時マニュアルを作成し、食料等の確保もなされている。	○	運営推進会議に地域の人にも参加してもらって、現在具体的な協力体制づくりを検討している最中である。また、認知症を抱える人たちにとって適切な避難方法を模索するといった取り組みがなされている。どのようにすれば緊急時に外に出る習慣が身に付くのか等様々な試みを行っているので、今後先駆的かつ普遍的成果を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	正食(マクロビオティック)という考え方に基かれた食事の提供が行われている。調理師・職員全員で勉強し理念を共有していて、ホームの大きな特徴となっている。理事長が所有する畑で採れたもの等、地元の新鮮な食材を使用し、栄養バランスのとれた献立が考えられている。また、一人ひとりの食事や水分の摂取量を職員が把握し、継続的に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の個人医院を改築してつくられた建物は、バリアフリーにするなど使いやすく変わってはいるものの、懐かしく家庭的な雰囲気はそのまま残されている。自然に囲まれそこで暮らしているだけで季節感を感じられる環境にある。季節ごとに花を飾ったり、座布団の素材を変えたり、コタツを入れたり工夫も行われている。利用者は日中ほとんど部屋に居ず、共用リビングや庭先で過ごしている姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが用意しているベッドやタンスがあるが、利用者がこれまで使用していたものを持ち込むことが可能である。特にホームからの規制はなく、部屋に絵や写真、使い慣れた日用品を持ち込んで、自分の部屋として居心地のよい空間づくりに努めている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	養老の泉
(ユニット名)	ようろうのいずみ
所在地 (県・市町村名)	大分県豊後大野市
記入者名 (管理者)	岩崎真由美
記入日	平成20年9月8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に”ともに地域の皆様と暮らして生きます”と掲げている。その人らしく最期までという介護理念で支えている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目のつくところに掲げている。 機会ある毎に理念に基づいたケアがなされているか話し合っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	「養老会だより」に載せ地域住民に理解を得ている。 家族会や運営推進会議等機会がある毎に当グループホームの果たそうとしている事、役割等を伝えていっている。運営推進会議には地域の方にも参加していただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩のときなど、会えば必ず挨拶している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、当初より自治会に加入しており、地区の清掃活動、集会などに参加している。 介護予防教室を開いている。 法人の行事の時など、チラシを作成し、近所の方一軒一軒訪問し配っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に理事長、施設長等が十分に説明を行い理解納得を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の暮らしの中で、利用者の声を聞き、記録し、職員皆で共有している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来所された時、様子を話している。 健康状態等に変化があれば、随時家族へ連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会があり、そのとき意見を伺っている。 意見箱を設置しているが、なかなか入らない。 面会にこられたときに、話しやすい雰囲気をつくり、対応する努力をしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>「養老の泉」スタッフ会議、全体スタッフ会議をそれぞれ月1回開いて、意見も聞くようにしている。 又、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見を聞くようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の日常生活に合わせたローテーションを組んでいる。 月に数回、管理者をシフトに入れていない日もあり、急な勤務変更時も柔軟に対応できている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年10月、今年の5月に管理者の異動があったが、顔なじみだったため、特に影響はなかった。職員の異動や新人職員もいるが、一人ずつの異動のため、利用者にはダメージはなかった。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>機会ある毎に、外部の研修会に参加し、報告書の提出をし、その内容をスタッフ会議で報告している。又、それを、ファイルし、いつでもみれるようにしている。(研修綴り)</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>19年度末に、連絡協議会を立ち上げたが、20年度は今のところ活動はない。</p>	<p>○ 同業者との交流をして、事業所の質の向上に努めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が利用者と離れ一息休憩が取れるように、休憩時間を交代でとるようにしている。 一人ひとりの職員と出来るだけコミュニケーションをとるようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2回、健康診断を行い、健康状態の管理を行っている。資格取得の働きかけをして、取得後は、手当が増えたり、必要な休みは優先的に取れるようにして、働きやすい職場を作っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の時期は、環境が変わり精神的に動揺しやすい時期という事を理解しており、御家族に会いに着ていただく機会を多くして頂くように声かけしたり、落ち着いてじっくり話を聞くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に情報もあるが、契約時に詳しく御家族の思いや本人の生活歴等を聞き取るようしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡で退所された利用者の家族が今年も桃(自宅で作っている)を皆さんにと頂いたりした。又遊びにきたいと言ってくれる家族もいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情、言葉、行動等から思いを汲み取っているが、困難な場合は、家族から聞き取りしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に聞き取りしているが、日々の暮らしの中で本人あるいは家族から聞き取りしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握するとともに、暮らしの中で出来ることを見つけるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の視点から見た業務的な介護計画にならないように、本人、御家族の思い、意見を伺いながら、日常生活が楽しく送れることを目標に作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急変等、必要時、現状に応じてケアの方法を変えているが、介護計画の見直しが追いついていない。	○	現状に即した介護計画を作成していけるように、1ヶ月に1度は見直すようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を見直し、改正している。 本人の言葉は、そのまま記録するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、重度化や終末期の入院は出来るだけさけ、これまでの生活の継続をしていただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お寺の婦人部の方たちが傾聴ボランティアに来てくれる。 保育園児が歌や踊りを披露に来てくれる。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者のその時の状況や希望に応じて、デイサービスへの参加が出来るように支援している。 本人の状態に応じて、訪問理容に来ていただいたりしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ対象者はいないが、今後あれば相談していく予定がある。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医となっている。やむを得ず変更する場合は、本人、御家族に説明し、納得していただいている。 定期的に往診していただいております。急変時には夜間休日かわらず対応していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医は、認知症の専門医ではないが、家族や職員の話をよく聞き相談に乗ってくれ、助言してもらっている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>職員に看護師を配置している。24時間連絡がとれて、急変時にはすぐ連絡でき、対応が来ている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>個々最近では、入院する事例がないが、今後あったときは、本人にとって安心できる支援に努めていきたい。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関する指針を交わし同意書もらっているが、状態の変化がある毎に、主治医、御家族、看護師、職員等を交えて話し合いを行っている。必要であれば、繰り返し行っている。御家族の気持ちの変化もあるので、その都度対応している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>緩和ケアの研修会に出席できる職員は皆参加し勉強した。その当時、癌の末期の方が入所されていたので、参加した職員は身近に感じられ、終末期に利用者を支える事に理解が得られた。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>最近では、住み返した事例はない。 今後あった場合、住み替えによるダメージが最小限になるように情報の共有をしたりと努めていきたい。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り時は匿名で本人はもちろん他の利用者にも分からないようにしている。一人の人として向き合い尊敬しながら対応している。 記録等は目に付かないところに保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いを大事にしていくことを、日頃から職員間で話していて、些細な場面でも、利用者本人が選択する場面を作るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり自由に自分のペースで過ごしてもらっている。 外に散歩に出かけたいときには、止めることなく、すみやかに職員も一緒に散歩に行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院は、以前から行きつけの店に行く人、美容院に行く人と本人に合わせてさまざま。 自己決定できる方は、出来るだけ自分で選んでいただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで会話をしながら食べている。 出来る人は、盛り付け等一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれの方の好物を把握し、本人の様子を伺いながら提供している。(あめ玉、果物、コーヒー等)	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツの使用を減らし、布パンツで対応している。こまめなトイレ誘導、パット交換を実施している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後入浴の準備をしているが、状況によって午前中でもよいする。入浴拒否される方も、入れば喜ばれる。一人で入らない方には、仲の良い人と入ってもらう。そのうち一人で入るようになった。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はたたみの間で横になったり、ソファで休んだり、自室で休息したりと自由である。夜は、眠剤は使用しないが、皆良眠。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	車に乗って出かける。外にベンチで過ごす。畑に行くとトマトを取ってくる。時代劇のTVが好きな方、おしゃべりが好きな方、歌が好きな方、それぞれが楽しんでいる。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っていて、時々使っている方もいる。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に行う、食事取り、買物等職員の用事で出かけるとき、誘って、一緒に出かけている。一人で散歩に出かけようとする方には、一緒に行ったり、見守りしたり、自由に出かけられるようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに花見物に行ったり、ドライブをしたりしている。家族と自宅に帰ることもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話をかけたり、手紙を書くということはないが、家族から贈り物が届いたときや電話がかかってきたときは本人に代わり、話していただいている。</p>	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間の決まりがなく、いつでも訪ねてきていただいている。 自室でお茶を飲みながらゆっくり話していただくようにしている。</p>	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員全員に周知しており、身体拘束はしていない。</p>	
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵をかけない暮らしの大切さについて職員は理解しており、日中は一切鍵をかけていない。センサー等も設置していない。</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>職員は、利用者と同じ空間で記録したり等して状況を把握している。 利用者の居場所確認を常に頭においている。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>包丁、爪切り等、自分でできる人には、使ってもらっている。 本数確認をしている。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ヒヤリハットの記録、事故報告書の提出により、事故防止とともに再発防止にも取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを、作成している。 救命救急の講習を職員全員が受けている。 スタッフ会議の中で訓練を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、避難訓練を実施している。 運営推進会議等で協力をお願いしている。 地域の人と一緒に訓練を行う予定もある。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	足取りが悪い方、一人で国道の方に出かけていってしまう方等、御家族と話し、拘束にならないように、本人の気持ち行動を大事にして対応している。		
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、記録している。 異変があれば速やかに看護師に報告している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の処方箋をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。 飲み忘れや、誤薬を防ぐために職員が一人ひとりに手渡し服薬チェック表に記録している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	摂取水分が不足していないか、気をつけている。 自然排便が難しい方には、下剤や坐薬等を使用している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さを職員が理解しており、毎食後必ず歯磨きの声かけをしている。見守りし、必要であれば支援し食物残渣が残らないようにしている。 週1度、義歯やブラシの消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックして、偏りや不足気味でないか職員一人ひとりが意識し把握するようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがある。 インフルエンザの予防接種は、全員受けている。 ノロウイルスの流行時には予防対策の告知を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理チェック表を作成し、常に衛生面では気をつけている。 冷蔵庫内は清潔にし、食材、残りの点検を常に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体が昔の民家を改修して出来ているので、違和感ない雰囲気がある。 庭の木々の様子も昔のままである。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや椅子をホールに置き、どこでも座れるようにしてある。 畳の間があり、寝転べる。 食堂も同じ空間にあり出入りが自由。 開き戸に、防音スポンジをつけて不快な音を抑えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きなところに座れるようにところどころに椅子を置いている。 ソファや畳のところで、利用者同士が腰掛け、会話して過ごしている。 前庭には、ベンチを置いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の前に、名札をかけている。自宅から、机、絵、写真等を持ち込んでいて、本人が落ち着けるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を見ながら利用者に合わせた温度調整をしている。換気はこまめに行っている。 居室の臭いにも気をつけて、布団干し、シーツ替え等こまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけている。必要に応じて増やしている。 (玄関の階段の上がり口、浴室の手前等) 立ち上がりにくい低いソファーには足を履かせて高くし、立ち上がりやすいように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口やトイレに利用者の目の高さに合わせた表札等の表示をつけ本人たちが確認しながら生活している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草取りが出来たり、ベンチに座り日に当たったり、木陰に座り涼んだり出来ている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方の笑顔がいつも見られるようなケアをしている。
 利用者中心のゆっくりゆったりとしたケアをしている。
 人として、尊敬の念をもって接している。
 その人らしく、最期まで楽しく安心して暮らしてもらう。